

8月20日(木)、日常生活で感じたことや日頃考えていることを作文で主張する「新潟県少年の主張大会村上・岩船地区大会」が行われました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、作文による書面審査で行われ、最優秀賞に県立村上中等教育学校の馬場さんが選ばれました。

審査員長を務めた鈴木正美さん(村上市岩船郡校長会会長)は「今年度は大人びたテーマが多かったように思います。我々大人が見過ぎてきたような社会問題をテーマに置いた作品が多く、文章を読んで大人が考えさせられるような内容でした」と講評しました。

最優秀賞に選ばれた馬場さんは、9月19日(土)に十日町市で開催された新潟県大会に、村上・岩船地域の代表として出場しました。

なお、全員の主張作文は、新潟県ホームページに掲載していますので、QRコードからご覧ください。



**【最優秀賞】 私にしかできないこと**  
村上中等教育学校 3年  
ばば 馬場 あすかさん

多くのことを教えてくれた妹のために、姉の私にしかできないこと。障がいについて、一人でも多くの人に知っていただきたいです。

# 村上・岩船地区大会

●問い合わせ

新潟県村上地域振興局健康福祉部  
企画調整課 ☎53-8361



## 最優秀賞 私にしかできないこと

皆さんには、きょうだいはいまいますか。私には、発達障がいをもつ、一つ年下の妹がいます。そして、私には夢があります。

発達障がいは、生まれつき脳の発達に障がいがあることの総称で、幼児のうちから症状が現れることがほとんどです。発達障がいにはいくつもの種類があり、妹はコミュニケーションが苦手で、こだわりが強く、興味の偏りが大きいなどの特徴がある、自閉スペクトラム症に該当します。

妹は、1歳の時に発達障がいと診断されました。私は、母が毎晩泣いている姿を幼い時から見てきました。今でもその時の母の姿を鮮明に覚えています。母は、幼い私に、「妹はあすかと違って成長がゆっくりなんだよ。」と何度も何度も言っていて聞かせました。私は、言葉を全く話さない妹を変だとは思っていませんでした。むしろ妹の病気が絶対に治ると考えていました。当時の将来の夢は医師になることでした。妹の病気について知りたい。私が妹の病気を治したい。そう思ったからです。

私が幼稚園に入園した五歳の時、一生忘れることのできない出来事が

起きました。それは、私、父、そして妹の三人でショッピングモールへ買い物に行った時のことです。気分を損ねた妹が、店内でパニックを起こしてしまつたのです。大声で叫び、床に寝転がる妹。そんな妹を立ち上げらせようとする父。その様子を、鋭い視線で見つめる買い物客。目は口ほどにものを言う。私は妹に視線を向けたすべての人が、「あの子は変だ。」「変わったっている。」と感じていることに気が付きました。それ以来、妹と外出することが怖くなりました。また外出中にパニックを起こすのではないか。周りの人々から鋭い視線を向けられるのではないか。そう考えると、楽しいはずの旅でさえ、心の底から楽しむことができなくなりました。

私が小学二年生の時、妹は特別支援学校に入学しました。父と母は「あすかが学校でいじめられないようにするためだから、理解してね。」と言いました。私は、妹と同じ小学校に通うものだと考えていたため、とても驚きました。そして、友達からきょうだいの話をされると「きょうだいはいないよ」と嘘をついてきま



【奨励賞】命の重さはおなじ  
村上東中学校3年  
川村 萌斗さん



【奨励賞】違いは財産  
村上第一中学校3年  
市岡 杏さん



【優秀賞】私の幸せ、私の選択  
神林中学校3年  
山本 晶さん



【優秀賞】「幸せ」を見つめて  
荒川中学校3年  
橋本 莉名さん



【奨励賞】私の部活  
山北中学校3年  
高橋 理衣奈さん



【奨励賞】かけがえのない存在  
朝日中学校3年  
中山 麻衣さん



【奨励賞】世界の争いについて  
岩船中学校3年  
宮村 理子さん

※このほかに市外（岩船郡）の代表で高橋香乃さん（関川中学校3年）、那須あんなさん（栗島浦中学校3年）が奨励賞を受賞しました

## 中学生が自分の思いを作文で主張 令和2年度 新潟県少年の主張大会

した。妹のことを話すと、友達が離れていくのではないかと怖かったからです。

私は小学校五年生の時から陸上をはじめました。六年生になったある日の練習中、一人の女の子が声をかけてくれました。私たちはすぐ打ち解け合い、私は家族の話をしました。「そついでいえば、きょうだいっているの？」と私が尋ねると、「いるよ。お姉ちゃん一人。でも、お姉ちゃん、身体障がいがあるんだよねー。」彼女は、笑顔で言いました。私は、「すごいね。自分だったら言えないな」と返しました。その日以来、妹のことで嘘をつくことより一層罪悪感をもつようになりました。そして、妹のことを正直に話せないまま小学校を卒業し、中等教育学校に入学。新しい環境でも、妹のことで嘘をつき続け、三年生になりました。

私は正直、このことを文章にするかとても迷いました。本当のことを話せば、友達との仲が悪くなってしまうのではないかと。障がいのことを、理解してくれるだろうか…とても不安でした。

現在も、障がいをもつ人やその家族への偏見や差別がたくさんあります。障がいがあるから仕事ができない。障がいをもつ兄弟がいるからいじめられた。家族に障がいをもつ人がいるから相手の家族に結婚を許してもらえなかった…。障がいへの理解が深まっていると思っていたため、このことを知り、ショックでした。偏見や差別をなくしたい。障がい者と健常者の間にある壁を壊して、皆平等に生きることができると作っていききたい。そう思い、勇気をもって、みなさんに伝えることにしました。今まで言えなかった、妹のこと、私の夢を。

私の妹は、一人でできることを増やすことを目標に頑張っています。最近では、母の洗濯物たたみの手伝いをしています。はっきり言って、私より家事が上手です。上達のスピードは皆さんよりも遅いかもありません。しかし、懸命に努力し、着実に進歩していることを、私は日々感じています。そんな妹を見ていると、学ぶことが多いです。

私には夢があります。それは、大きな会場で、できるだけ多くの人に、障がいのことを伝えることです。障がい者や、その家族の悩みや思いを、日本中、世界中に発信したいです。発達障がいをもつ妹を14年間見てきた、姉の私にしかできないこと。私は、全力で挑戦します。

